

講義コード	515105801	
講義名	子ども家庭支援の心理学 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	設楽 紗英子	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

生涯発達と家庭・家族の形について理解を深めながら、保育者が行う家庭支援について考察していく。テーマごとに個人あるいはグループでの発表と討論を行う。

授業の到達目標及びテーマ

保育者は、子どもと保護者、その家庭生活を支援する存在である。本授業では、生涯発達の考え方や、家庭の意義・機能について理解しながら、発達的な観点から子どもとその家族を捉える視点についてまず捉え、加えて、子育て家庭を取り巻く現代の社会的状況や子ども心の発達と環境の影響に関わる諸々の問題について理解し論じることができることを目標とする。

本科目は、幼児教育科のディプロマポリシーの「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目である。

授業計画表

子ども家庭支援の心理学

回	担当教員	項目	内容
第1回	設楽紗英子	第1回 生涯発達とは	生涯発達の視点と家庭支援の関係について理解します。
第2回	設楽紗英子	第2回 子育て家庭に関する現状と課題① 家庭と社会的状況の変化	明治期以降の家庭を取り巻く社会的状況について整理し、現代の親や家庭の社会的位置づけについて理解します。
第3回	設楽紗英子	第3回 家族・家庭の意義と機能	家族や家庭が子育てにおいて果たす役割と、健康な家族のあり方について理解する。
第4回		第4回 親になるプロセス① 母親になる（基礎知識）	母親になるプロセスとそこに付随する問題について理解する。
第5回		第5回 親になるプロセス② 母親になる（討論）	妊婦体験や、身近な親へのインタビューを通して、親の持つ役割について考える。
		第6回 親になるプロセス③ 父親	父親になるプロセスとそこに付随する問題につ

第6回		になる	いて理解する。
第7回	設楽紗英子	第7回 子育て家庭に関する現状と課題② ワーク・ライフ・バランス（基礎知識）	ワーク・ライフ・バランスに関する基礎知識について理解する。
第8回	設楽紗英子	第8回 子育て家庭に関する現状と課題② ワーク・ライフ・バランス（討論）	自分たちが考えるワーク・ライフ・バランスについて調べ、議論する。
第9回	設楽紗英子	第9回 家庭支援の方法と過程① 事例検討	事例を基に、家庭を見るということ、保育者と家庭の連携について考える。
第10回	設楽紗英子	第10回 特別な配慮を要する家庭① 障害を持つ子どもと家族	障害を持つ子どもがいる家族に関わる上での留意点と支援のポイントを理解する。
第11回	設楽紗英子	第11回 特別な配慮を要する家庭② ひとり親家庭とステップファミリー	ひとり親家庭とステップファミリーを理解する上で必要な留意点と支援のポイントを理解する。
第12回	設楽紗英子	第12回 特別な配慮を要する家庭③ 要保護児童がいる家庭	要保護児童がいる家庭の留意点と支援のポイントを理解する。
第13回		第13回 家庭支援の方法と過程② 保護者と保育者の関係づくり	ロールプレイを通じ、保護者との関係づくりについて考える。
第14回		第14回 子どもの精神保健	子どもの精神保健の基礎知識とともに、支援の考え方について再度整理する。
第15回		第15回 子どもの生活・生育環境とその影響	子どもの発達に影響する要因とその実際について理解する。

授業時間外の学修

- 1) 予習 各回で使用、もしくは、テーマに関連する文献の事前読了を求めます（3時間程度）。
- 2) 復習 各回で扱った内容を指定した方法で振り返り、まとめ、提出してもらいます（1時間程度）。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシー①③ 自律学習能力の修得	ディプロマポリシー② 専門的知識・技術の修得	ディプロマポリシー④ 分析・論理構成・表現力の修得	ディプロマポリシー⑤⑥ 問題解決能力・協働性の獲得
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
				授業内容の理解

理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
表現力	授業内容を100%理解しており、臨機応変に家庭支援のあり方について他者に伝えることができ、表現力がより豊かに身につけていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、家庭支援のあり方について他者に伝える表現力が身につけていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、家庭支援のあり方について他者に伝える表現力が身につけていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
子ども家庭支援に取り組む準備状況	授業内容を100%理解しており、家庭支援について自分なりの問題意識をもち、取り組む準備が十分に整っていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、家庭支援に対して関心を持って取り組む準備が整っていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、家庭支援に関心を持って取り組む準備がやや整っていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	40%	本授業で扱った問題をさらに掘り下げるレポート課題を出します。
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	20%	授業ごとに、テーマに沿った個人あるいはグループの活動を行いますので、積極的に参加してください。
レポート	40%	授業ごとに、各回のテーマについて理解を深める課題を出します。出欠の如何に関わらず必ず取り組み、提出し、授業内容の理解に役立ててください。
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
掲示板等に正解と講評を掲載する	掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する	

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等
ビデオ会議システム

チャット
掲示板の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
発問の吟味・精選 グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) プレゼンテーション コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用		

教科書

原信夫・井上美鈴編著(2019年)『子ども家庭支援の心理学』(北樹出版)

※「発達心理学」で購入済み

参考書

真橋美智子ほか(2008年)『家族の発達支援と家庭教育』(大学図書出版)

橋本真紀・山懸文治編(2011年)『よくわかる 家庭支援論』(ミネルヴァ書房)

柏木恵子(2007年)『よくわかる家族心理学』(ミネルヴァ書房)

柏木恵子(2003年)『家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点』(東京大学出版界)

佐々木正美(2012年)『ひとり親家庭でも子どもは健全に育ちます』(小学館)

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう

特記事項等

授業計画のうち、「親になるプロセス」については、一部、外部講師に依頼する予定であり、開催回を入れ替える可能性がある。

科目のナンバリング

SOB2403

研究室(訪問先等)

中央研究棟2階226研究室

直接研究室を訪ねるかチャット等で連絡を下さい。

電話番号

028-667-7111(代表)

授業用E-mail

shitara@sakushin-u.ac.jp